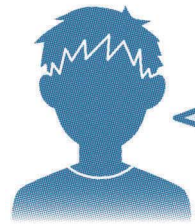


いのちと地域を守る

車に乗っていた被災者の証言(山本教授の調査から)



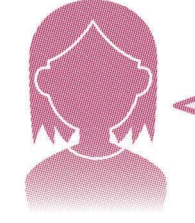
渋滞にはまり津波に1ヵ所流された。エンジンは止まったが、最後まで電気系統は無事で窓は開いた。流されないようシートベルトと立ち木を結んだ。浸水で車体が前に傾き始めた。車内のごみ箱で排水を続け、一晩中浮いたままだった。

宮城県亘理町 男性



妻を乗せ、車で逃げる途中に津波にのまれた。ブレーキペダル付近から水が入ってきた。車は前が水没し、後部座席にしか空気がない状態になった。割れていた後部の窓ガラスから2人で脱出した。

東松島市 男性



津波に400mほど流れエンジンが停止した。次第に沈んだが脱出までの4時間は浮いた状態だった。ランチで窓ガラスを割りゴムボートの消防隊員に救助された。泳げないので車から離れるつもりはなかった。

仙台市 女性



移動中に車両が津波で浮き、ドアの下からすごい勢いで水が入ってきた。窓枠に足をかけて屋根の赤色灯をつかんだ。沈んだ状況で流された。

石巻市 男性(警察官)

車運転中の津波被災



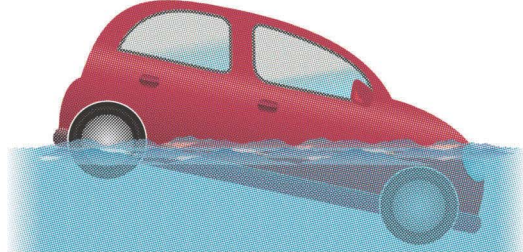
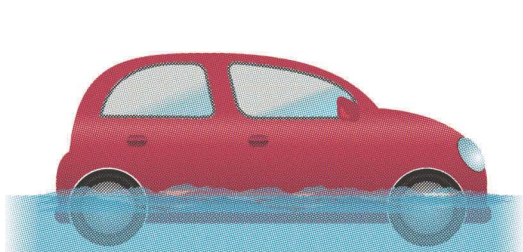
仙台空港を襲った津波に流される車両。重いフロント部分から沈み始めている
＝2011年3月11日午後4時すぎ

水位の変化で車に起きること

※車の浸水被害の一例。車の状態は浸水の条件によって変わる。

車が浮いて流れ始める。

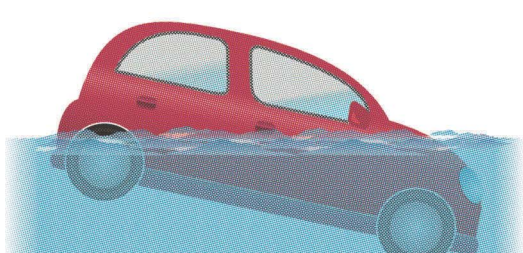
エンジンや変速機がある前方が沈む。ドア周りを中心に浸水が始まり、車内前方から水がたまる。



ドアや窓を開けて避難

空気吸入口から空気が入るか、電気系統がショート、放電状態になりエンジンが止まる。パワーウィンドーは動かない。

水圧でドアが開けにくくなる。ただし車内に水が入り車内外の水圧が等しくなると再びドアが開く。



窓ガラスを割って避難



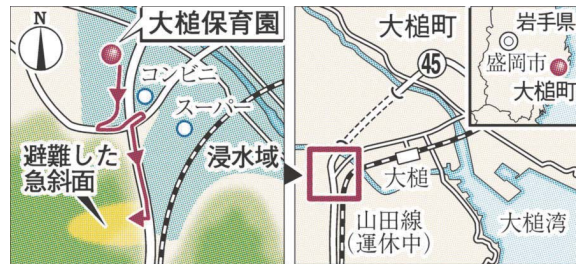
窓や後部ガラスを割るか、ドアを開けて避難

園舎、避難場所に津波(岩手・大槌町)

急斜面 園児連れよじ登る



園児、保育士らがよじ登った斜面の下には、津波で流された大量の住宅やがれきが打ち寄せた
＝2011年3月13日、岩手県大槌町小鎌



150ほど登った斜面の上には、先に避難した人たちがいて、子どもを引き上げてくれました。ほとんどのか、泣きだす子どももいました。だっしたり、足の間に挟んだりして落ち着かせました。雪が降り出し、火事も起きていました。

コンビニで親に引き渡した子どものうち、9人が犠牲になりました。このことは一生消えることはありません。亡くなった子どもや親の分まで、保育士として自分にできることを精いっぱいしていきたいと思います。

子どもを助けた。みんな必死でした。私はパンプスを履いていました。パレエニョスやサンダルで子どもを背負い、急斜面を登った職員もいました。火事場のばか力つてあるんだと思います。

私は、逃げ遅れた子どもがいなか確認しながら、最後尾から登りました。振り返ると、大槌湾から押し寄せた波が、コンビニと保育園をのみ込むのが見えました。

子どもを助けた。みんな必死でした。私はパンプスを履いていました。パレエニョスやサンダルで子どもを背負い、急斜面を登った職員もいました。火事場のばか力つてあるんだと思います。

岩手県大槌町の中心部にある大槌保育園は、園舎も避難場所も津波に襲われ、園長の八木沢弓美子さん(46)は保育士とともに園児を連れて急斜面をはい上がり、幼い命を守った。

伝える

2011.3.11



八木沢弓美子さん

地震が発生したのは、ちょうど昼寝が終わった時でした。職員とバジャマ姿の100人ほどの子どもたち、防災ずきんをかぶせ、持ち出し袋を持って避難しました。

向かったのは避難場所に決まっていた小高い丘にあるコンビニ。傾斜がきつくて、普段なら登るのが難しいところでした。でも、迷っている余裕はありませんでした。ここを登らなければ、みんな命を失う。逃げ遅れる高い場所は、目の前の山に決まっていた。傾斜がきつくて、普段なら登るのが難しいところでした。でも、迷っている余裕はありませんでした。ここを登らなければ、みんな命を失う。

地震が発生したのは、ちょうど昼寝が終わった時でした。職員とバジャマ姿の100人ほどの子どもたち、防災ずきんをかぶせ、持ち出し袋を持って避難しました。逃げ遅れる高い場所は、目の前の山に決まっていた。傾斜がきつくて、普段なら登るのが難しいところでした。でも、迷っている余裕はありませんでした。ここを登らなければ、みんな命を失う。

探る

レスキューロボット活用元年



たなか・さとし氏 愛媛県出身、東大大学院修了。神戸大助教授を経て、05年東北大学情報科学研究科教授、12年から災害科学国際研究所教授(併任)。NPO国際レスキューシステム研究機構会長、IEEEロボティクス・オートメーション学会副会長。専門はロボット工学。52歳。

原発・港湾、難所で情報収集

ロボットはバックボットが使われ、原子炉建屋内の様子を初めて調べることができた。その2ヵ月後には千葉・大東大・国際レスキューシステム研究機構に、多くの水中ロボットが使われた。南三陸町では、国際レスキューシステムが建屋内に入り、初めて5階に上を調査することに成功した。クインスが集めた映像や放射線量などの情報は大変有益だった。作業員が作業できるのかどうかが、今後の大規模災害では、ロボ



福島第1原発の2階から5階に初めて上り、放射線量や映像情報を収集したレスキューロボット「クインス」

告知板

■15日に「創造的復興」をテーマに講演会 15日午後6時、山形市の東北芸術工科大学。主催は同大建築・環境デザイン学科。

東日本大震災を受け、さまざまな形で被災地の復興支援に取り組んでいる建築家ネットワーク「アーキエ

イド」の中心メンバー小野田泰明東大教授(建築計画)が、被災地内外での活動を通じて考えた「創造的復興」について講演する。

入場無料。定員250人。連絡先は東北芸術工科大学大建築・環境デザイン学科準備室023(627)2189。

今月は11日が休刊のため、12日に掲載しました。